

## 1) 著作権保護のための表示

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

## 2) 研究会基本情報

-----  
タイトル：「多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開」（令和3年度第2回研究会）

日時：令和3年12月4日（土曜日）午後2時30分より午後5時

場所：オンライン

1. 仲尾周一郎（AA研共同研究員、大阪大学）

「バイリンガリズムを「記述言語学」する：双言語記述の3つのケーススタディ」

2. 全員「全体討論」

-----  
標記プロジェクトの2021年度第2回研究会は、上記日時において10名の参加者を集めて開催された。

前回の第1回においては、アフリカの多言語混在状況をめぐる近年の研究動向に焦点をあてて議論を行った。今回は、そのような多言語状況における言語記述の在り方について、プロジェクト副代表の仲尾周一郎氏（大阪大学）から「バイリンガリズムを「記述言語学」する：双言語記述の3つのケーススタディ」と題した発表があった。前回ポジション・ペーパーとして扱った Lüpke and Storch (2013)においても焦点が当てられていた、従来の言語記述や言語理論における「単言語主義（monolingualism）」バイアスの問題を定位したうえで、一方のマルチリンガルな状況における言語接触現象の記述も多くは質的に不十分で表層的なものに留まってきた点がまず指摘された。こういった問題を乗り越える一つの試みとして「holisticな言語記述」という枠組みを提示し、その具体的な実践として3つの言語接触事例を紹介した。各具体事例からは、その状況に関わるさまざまなコードを並行的に射程に含むトータルな記述によって、いかに言語体系の立体的な記述が可能になり、また体系内のダイナミズムを把握するうえで有効であるかが説得的に提示された。また、いわゆる接触影響の方向性についても、（従来の major な言語が minor な言語を駆逐するという単純化された図式のみならず）さまざまな力学が観察されうることが実証的に示された。（より具体的な内容については以下に掲載するハンドアウトを参照されたい）

以上の議論をふまえ、全体討論では各参加者のフィールドにおける言語記述の実践や具体的な現象から、アフリカ的多言語混在状況において有効な言語記述の在り方についての議論が交わされた。

文責：品川大輔

## バイリンガリズムを「記述言語学」する：双言語記述の3つのケーススタディ

Linguistic description of bilingualism: Three case studies of bilingual description

仲尾周一郎

### 1. はじめに

#### 1.1. 関心の所在、最近の（社会）言語学の潮流との関係づけ

*Bilingualism* (Romain 1995: 1)

**It would certainly be odd to encounter a book with the title *Monolingualism*. However, it is precisely a monolingual perspective which modern linguistic theory takes as its starting point in dealing with basic analytical problems such as the construction of grammars and the nature of competence. Chomsky (1965: 3), for instance, has defined the scope of reference for the study of language as follows: ‘Linguistic theory is concerned primarily with an ideal speaker-listener, in a completely homogeneous speech-community, who knows its language perfectly.’ This orientation to linguistic theory contrasts sharply with that of Jakobson (1953), who observed: ‘Bilingualism is for me the fundamental problem of linguistics.’**

言語学自体に内在する「単言語主義」(monolingualism) ないし「単言語バイアス」(monolingual bias) に意識的になることで、記述言語学者が扱いうる研究対象・言語データは拡がるのではないか。記述言語学は方法論の安定化のために、描かるべき「言語」を規範化／本質化し（すぎ）ているのではないか。明らかにモノリンガル状況と異なる方法論が必要な、言語接触というテーマについてさえ、モノリンガルな「言語」を基盤に分析されてこなかつただろうか。

本発表では構造主義以来の現代言語学を棄てて社会言語学者になるべきだ（別の言い方をすれば ‘langue’ ではなく ‘parole’ を研究対象とすべきだ、あるいは「言語」を解体／脱構築せよ cf. translanguaging, etc.) ）という主張ではなく、「言語」観を少しほぐせば、記述言語学の可能性が広がりうることを示すことを目的したい。未知の「新言語変種」が既知の「言語変種」の話者の頭の中に「「第二」言語」という形で存在していることもある (cf. アイヌ語話者の日本語変種)。言語交替は往々にして二つ以上の言語変種が失われているのではないか。

記述言語学における「単言語バイアス」：

- ・エリシテーションや対訳の忌避 (e.g., Dixon 2010; ‘frog story’, etc.)
- ・「生え抜きの話者」の選好
- ・「危機言語」記述における話者の第二言語に関する報告の欠如
- ・エスニック・アイデンティティと一致しない言語に対する無関心
- ・創造性より遺産の記録
- ・都市より村落

\*民族誌 (ethnography) という方法論が「民族」という単位を離れたように記述文法 (descriptive grammar) という方法論は「民族」から離れられただろうか？

\*外国語教育を含む応用言語学分野、ついで社会言語学分野での「単言語バイアス」(e.g., Kachru 1994; Grosjean 2008) に対する関心の高まりや「多言語主義的転回」('multilingual turn')、グロジヤン (2018: 4) による「バイリンガリズム」の定義、「二言語またはそれ以上の言語や方言を日常生活の中で定期的に使用すること」(Uriel Weinreich や William Mackey の潮流を汲む)

これまでにも、明らかにバイリンガリズムを含意する言語資料の収集は行われてきた (e.g., 江口一久：コイネー・フルフルデ語のドキュメンテーション、梶茂樹：コンゴ・スワヒリ語語彙集、その他コード・スイッチングの事例提示など)。しかし、もっと直接的に、バイリンガリズム、あるいはバイリンガル話者の言語能力、あるいはバイリンガル状況下で複数の言語に関わる言語能力をホリスティック (holistic) に「記述言語学」することもできるのではないか。（＊ここではバイリンガリズムを二言語に限定するわけではない）

一方で、バイリンガリズム研究・社会言語学的研究での言語データの提示も、せいぜい借用語がたくさん入っている表層的なバイリンガル発話の例示程度に留まることが多いのではないか。結果的に、バイリンガリズムが表層 ('parole') 的な現象として想像される状況に結び付いてきたのではないか。

### 1.2. **bilingual description** (仮に「双言語記述」と訳す)

アメリカ初期社会言語学者 Einar Haugen による 1950 年代の造語 (Haugen 1954, 1955) であり、Uriel Weinreich や Robert Hall にも影響を与えた。彼は ‘language planning’, ‘code-switching’, ‘ecology of language’, ‘semi-communication’ などの社会言語学的概念の提唱者でもある。双言語記述のフルスケールの実践例としては Nagara (1972) による日系ハワイ移民英語ピジン研究がある。

The problems of descriptive technique have been much discussed in recent years, but

few have considered the problems involved when we try to describe more than one language or dialect at a time. We need to extend the concept of description to include the issues which arise when two or more languages are used by the same speakers. We need to study the method that are appropriate for making systematic comparisons of languages and dialects without regard to their genetic relationships. For such comparisons I shall here use the term BILINGUAL DESCRIPTION. ... we have a linguistic state which can be studied for its own sake, namely the co-existence of different linguistic structures in the same speakers.

... A bilingual description is thus more than two monolingual description laid side by side, for it attempts to equate units of the one language with units of the other. In so doing it can be strictly synchronic in its procedure and should be applicable to any two languages or dialects. (Haugen 1954)

ただし、Haugen/Nagaraは本発表が目指したい記述のあり方とずれているため、これを確立した「方法論／マニュアル」とはみなさない。

本発表では、文法、形態素、多義性などの二言語間での「共有・非共有」の事例を扱う（コード・スイッチング／ミキシングになぞらえるなら、コード・シェアリング (?) とでもいるべきか）。二つの言語が構造を「共有している」という分析は、従来の正統的な言語学では許されてこなかったはず。Haugen の言葉を借りるなら「言語間同定 (inter-lingual identification)」、あるいはより特定的に、同定された音素を‘diaphone’、形態素を‘diamorph’などと呼べるかもしれない (e.g., “English /b/ is identified with Norwegian /b/ by speakers of the latter language”, Haugen 1955)。ただし、本発表で例示するとおり、一つの単位は複数の側面をもつため、単純な「同定」モデルは不便である。翻って、それと同時に「非共有」という側面も「共有」と同等に重要である。なぜなら、双言語記述の枠組みではバイリンガルの言語能力を(ある程度)統合された(holistic)なものと考える理論的要請があるため、そうした(旧来の言語学の枠組みでは「当たり前」となるはずの)差異は、むしろパラドクスのように捉え返すことができる。

本研究は、どちらかといえばいわゆる「混成言語」(mixed languages)と呼ばれる諸言語、特に（それ自体を「二言語」、うち一つを「混成言語」と呼ぶべきかどうかはさておき）安部麻矢氏の内マア語・外マア語研究の記述様式と共に鳴する点が大きい (e.g., 両変種での関係節の文法性が不一致なのは、なぜ「不思議」な現象なのか；それを独立した言語変種とみるなら不一致なのが当然だが、「一個人が話す同じ言語のレジスター」と考えるからでは)。明らかに異なる複数の言語を話す能力にフォーカスし、ホリスティックに「記述言語学」するための様式へと発展させられないだろうか。

### 1.3. 事例一覧

- ① ベニシャングル・アラビア語とベルタ語（エチオピア西部）  
\* ベニシャングル・アラビア語：クレオールではないが、簡略化が認められるアラビア語変種（発表者により独立した言語変種として「発見」）  
\* 仲尾周一郎. 2021. 「ベニシャングル・アラビア語の民話テクスト」 *Studies in Ethiopian Languages* 9 (2020): 27-47.  
\* 仲尾周一郎. 2019. “Fundamental Dialogues in Berta/Funj”, *Studies in Ethiopian Languages* 8: 20-55.  
\* 仲尾周一郎. 2017. 「ベニシャングル・アラビア語に関する覚書（1）」 *Studies in Ethiopian Languages* 6 (2017): 21-43.
- ② ケニア・ヌビ語とナイロビ・スワヒリ語（ケニア・ナイロビ）  
\* ヌビ語：ケニア・ウガンダで話されるアラビア語クレオール。ほぼ全ての話者がスワヒリ語、多くは加えて英語やローカルな民族語を話す。  
\* ヌビ語辞書を作るかたわら、竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』をベースとしてヌビ語入門教材あるいはスワヒリ語との対訳テクストを作成（Beginner's Nubi、「アラビア語演習」授業で使用中）。  
\* <https://sites.google.com/view/nubi-dictionary> (工事中)
- ③ ジュバ・アラビア語とバリ語（南スーダン・ジュバ）  
\* バリ語（ナイル・サハラ、東ナイル語派）は2020年度より大阪にて調査。  
\* 上記のヌビ語／スワヒリ語と並行的なテクストを作成、結果的に4言語対照可能に（「アラビア語演習」で使用中）。

本稿ではデータ提示と個々別々の解釈（どういう部分が共有されているか、いかないか）を示すに留め、一般化（の可能性の検討）は今後の課題とする。

## 2. ベニシャングル・アラビア語とベルタ語

ベニシャングル・アラビア語 (Benishangul Arabic) : エチオピア・スーダン国境地域に住むベルタ語 (Berta) 話者のうち、北部スーダンの「アラブ人」(ナイル・ヌビア諸語の話者を含む) に父系リネージ、その起源を「ベルタ語話者」ととの間の混淆に辿るスンナ派ムスリムである、「マユ」(Mayu) と呼ばれるカテゴリーの人々が、事実上は母語の一つとして、ただしアイデンティティ上は「第二言語」として話す、スーダン・アラビア語の一変種。最も一般的には、近隣の諸民族と同様に「フンジュ人」(中世スーダンのスルタン国) を自称する。ベルタ語・アラビア語のバイリンガリズムの歴史は200年を超えると考えられる。

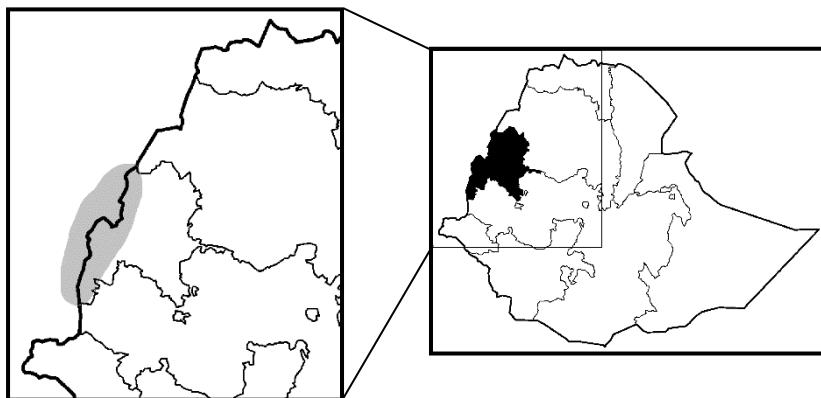


図1：ベニシャングル＝グムズ州（右図、黒色）および  
ベニシャングル・アラビア語が話されると考えられる地域（左図・灰色）

## 2.1 子音体系

スーダン方言 (SA) は有声性の対立、咽頭化子音 (C)、咽頭摩擦音などをもつ。MB・BA はこれらの音素・音韻特徴をもたず、放出音をもつ。MB・BA 阻害音の有声性は音声実現としては安定しない（表は MB 正書法に基づく）。

### MB・BA・SA における阻害音の体系

MB	BA	SA
b d (j) g ?	b d j g ?	b t d j k g ſ ?
p' t' d' k'	t' k'	t̪ d̪
f th z sh h	f z sh h	f sz sh kh gh ḥ h
s'		ʂ ʐ

SA.	BA.	
tiin	díin	「イチジク」
diin	díin	「宗教」
saman	záman	「脂」
zaman	záman	「時間」
kut-ta ~ kun-ta	gúd-da ~ gún-da	「私は～であった」(was-1SG)
gut-ta ~ gul-ta	gúd-da ~ gúl-da	「私は言った」(said-1SG)

SA.	BA.
ẗ	t̪iin 「泥・泥濘」
iṭnaashar	it̪nááshar 「十二」

	daabit̪ 「オフィサー」	dáabit̪ 「オフィサー」
gh	ghaali 「高価な」	k'áali 「高価な」
	shughul 「仕事・もの」	shúk'ul 「仕事・もの」
	al=ghur?aan 「コーラン」	al=k'ur?áan 「コーラン」
d	duhur 「正午」	dúhur 「正午」
	khaðaar 「野菜」	hadáar 「野菜」
	gabað 「捕まえる」	gabat̪ 「捕まえる」
	aðum 「骨」	at'um 「骨」
z	zuruuf 「環境・境遇」	zurúuf 「環境・境遇」
s	suura 「章」、ṣuura 「写真・絵」	zúúra 「章、写真・絵」
	khalaas 「おしまい、よし」	haláaz 「おしまい、よし」

ただし、接触の結果 /t, g/ が [t', k'] へと変化したというよりは、祖アラビア語 \*t, \*q の間接的な反映であると考えたほうが説明しやすい（仲尾 2018）。

SA は /g/ と /j/ は環境によらず異なる音素である。BA は /g/ と /j/ [ʃ] の対立をもつが、/g/ は前舌母音 (/i/, /ee/) の直前で /j/ と中和する。MB は固有語には /j/ をもたないが、大量の BA 借用語には /j/ が見られ、/g/ の前舌母音直前の環境異音として [ʃ] をもつ。

dígin	[díjin] ~ [dígin]	「あごひげ」
zíjin	[zíjin] ~ [zígin]	「刑務所」
dígn=u	[dígnù], *[díjnù]	「彼のあごひげ」
zíjn=u	[zígnù], *[zígnù]	「彼の刑務所」

同様に、MB では前舌母音直前で /j/ は環境異音 [ʃ] をもつが、自称である alfúúj̪ 「フンジュ人」(cf. 属格形 álfuupnú) という語では、例外的に音素 /j/ と解釈せざるを得ない。ところで、/j/ は BA(SA) でも借用語やオノマトペ起源の語にしか現れない稀な音素であり、特に同音の BA. alfúúj̪ 「フンジュ」という形式も、「借用語」としか言いようがない。

## 2.2 トーン拡張規則 (HLH → HHH)

MB はトーン言語であり、語彙的・文法的機能をもつ H と L の二つの声調素が想定される。MB は基底の HLH (HLF) が表層的に HHH (HHF) と実現するトーン拡張 (tone spread) 規則をもつ。

基本的に BA は 1 語中特定の 1 音節のみが必ず卓立をもつ、所謂ピッチアク

セント言語だが、表層的な実現としては MB のトーン拡張規則が適用される。

音節構造および TBU (= 音節) は MB と BA で共通。

- MB. k'óli 'eat' + máré '3PL' → k'ólí=máré 'they eat'  
thá 'in' + itóbia 'Ethiopia' → thá ítobia 'in Ethiopia'  
abbá 'Mr.' + kamál 'PN' → abbá kámál 'Mr. Kamal'
- BA. az=zána 'the year' + dá 'this' → az=záná dá 'this year'  
fií 'exist' + shunú 'what' → fií shúnú 'what happened (what is there)?'  
ind=í 'have=1SG' + gurûsh 'money' → indí gúrûsh 'I have money'

### 2.3 ハムザトウ・ル・ワスル (*hamzat l-wasl*) とトーン

アラビア語定冠詞 *al*=(/l/ は舌尖音の直前で逆行同化する) は、ポーズ直後以外 (かつ SA/BA については直前の語が母音終わりである場合) の位置で /a/ が削除される。この現象はアラビア語伝統文法で「ハムザトウ・ル・ワスル」と呼ばれる。MB におけるアラビア語借用語名詞は基本的に全て化石化された *al*= をもち、定冠詞としての機能はもたない (メタ言語的にも概ねそのように自覚されている)。しかしハムザトウ・ル・ワスル規則は MB にも適用される。ただし、基本的にアラビア語定冠詞にしか適用されない (例外として abbá 'father', ammá 'mother')。一般的に MB では /ia/ の連続は表層的に [a:] となる (e.g., ali '1SG' + álo 'here is' → ali álo 'here am I' [àlá:lò], \*[alilo])。

- MB. Ø gádáb-óó algidáab [gádábôlgídâb]  
3SG write-PST book 'he wrote a book'
- MB. ñgó gídi alfágga=ya? [ñgójídîlfág:àjá]  
2SG have change=Q? 'Do you have change?'
- BA. j-óó an=náaz [jônnâz]  
came-3PL DEF=people 'the people came'
- BA. fii al=madíína [filmàdí:nà]  
in DEF=town 'in the town'

### 2.4 多義的な機能語 MB. sha vs. BA. ashan

多義的な機能語 MB. sha vs. BA. ashan (語源的には MB の形式は BA に由来するが、それらの機能の大部分は SA の同源形式 'ashaan とは異なる)

- a. MB. maabí p'ishiga áŋ sha arraʔíiz p'erijí tha Asóósa.  
BA. annáaz mabzuut'íin ashan arraʔíiz jáay lee Asóósa.

- ‘People are happy **because** the president is coming to Assosa.’
- b. MB. **sha** shúgo jinéŋ shibílóogálí albún.  
BA. **ashan** gída ishtaréed albún.  
‘**For** that (reason), I bought coffee beans.’
  - c. MB. maabí íshi?í **sha** bak’á ádó árra?iiz.  
BA. annáaz ábu **ashan** arra?iiz má yáji.  
‘People refused **so that** the president will not come.’
  - d. MB. maabí k’alóo?í bá **sha** arra?iiz p’eripí thálé.  
BA. annáaz gáalu **ashan** arra?iiz jáay hína.  
‘People said **that** the president is coming here.’
  - e. MB. maabálé s’úllá **sha** Boorid.  
BA. azzóol dá bigul lééhu (\***ashan**) Ásad.  
‘This man is called (**as**) Lion.’

唯一、「呼ぶ」の項としての機能 (7e) のみ多義性が共有されていない。日本語もそうだが（「A を B と呼ぶ」）、引用節標識が例外的に動詞「呼ぶ」の項を標示する言語（コプト語やジュバ・アラビア語）も存在する。

## 2.5. 焦点化標識 **ŋinéŋ** [ɲinéŋ], yaahú

語源的／語形成的な類似（いずれも 3SG.(M) 代名詞が化石化している）、焦点範囲（項焦点・文焦点）、法による制約などが共有されている。

① いずれの焦点標識も項焦点（疑問詞含む）・文焦点を表す。

- a. NARROW FOCUS, SUBJECT
  - MB. ndá (**ŋinéŋ**) shap’úth-óó al?uzdáaz?  
who (FOC) hit-PST teacher  
‘Who hit the teacher?’
  - at’t’álib **ŋinéŋ** shap’úth-óó al?uzdáaz.  
student FOC hit-PST teacher  
‘The student hit the teacher.’
- BA. minú (**yaahú**) dárab al=?uzdáaz?  
who (FOC) hit.3SG.M DEF=teacher  
‘Who hit the teacher?’
- at’=t’álib **yaahú** dárab al=?uzdáaz.  
DEF=student FOC hit.3SG.M the=teacher

‘The student hit the teacher.’

b. NARROW FOCUS, OBJECT

MB. ndá (**ŋinéŋ**) shap'úth-óó át't'aalib?

who (FOC) hit-PST student.NOM

‘Who did the student hit?’

— al?uzdáaz **ŋinéŋ** shap'úth-óó át't'aalib.

teacher FOC hit-PST student

‘The student hit the teacher.’

BA. minú (**yaahú**) dárab=u at'=t'álib?

who (FOC) hit.3SG.M=3SG.M DEF=student

‘Who did the student hit?’

— al=?uzdáaz **yaahú** dárab=u at'=t'álib.

the=student FOC hit.3SG.M=3SG.M DEF=teacher

‘The student hit the teacher.’

c. BROAD FOCUS (SENTENCE FOCUS)

MB. náj zííʔí? — at't'áálib **ŋinéŋ** shap'úth-óó al?uzdáaz.

what exist student FOC hit-PST teacher

‘What’s up?’ ‘The student hit the teacher.’

BA. fíí shúnú? — at'=t'áálib **yaahú** dárab al=?uzdáaz.

exist what DEF=student FOC hit.3SG.M DEF=teacher

‘What’s up?’ ‘The student hit the teacher.’

② いずれの焦点標識も命令法・接続法とは共起できない。

a. MB. daa=gé algargadé.

BA. addii=ní gargađé.

give.IMP=1SG hibiscus.tea

‘Give me hibiscus tea.’

b. MB. \*algargadé **ŋinéŋ** daa=géʔí.

BA. \*gargađé **yaahú** addii=ní.

hibiscus.tea FOC give.IMP=1SG

c. MB. algargadé (\***ŋinéŋ**) **ŋgó**-daa=géʔí.

BA. gargađé (\***yaahú**) **da**-ddii=ní.

hibiscus.tea (FOC) 2SG(M).SBVJ-give=1SG

‘You give me hibiscus tea.’

d. MB. algargadé **ŋinéŋ** daa-**ŋó**=géʔí

BA. gargađé **yaahú** **bi**-**da**-ddii=ní

hibiscus.tea FOC IND.2sg.give=1SG  
‘You will give me hibiscus tea.’

## 2.6. MB. shúgo vs. BA. gída ‘like this’: 指示副詞・不定性標識・背景標識

BA. hú gal=léí gída  
3SG said.3SG=DAT.1SG like.this

MB. ɻine k’al-óó-gé-ɻí shúgo  
3SG say-PST-DAT.1SG-INTR like.this  
‘He told me **like this**.’

BA. yóom (dááni) gída, (ána) mashée-d az=zúug  
day (some) like.this (1SG) went-1SG DEF=market

MB. múnzú-máñ shúgo, ali ad-a-ɻí tha assuug-ú  
day-INDEF like.this 1SG go-PERF-INTR PREP market-GEN  
‘Once upon a time (on a **certain** day), I went to the market’

BA. u ligée-d duggáan zéme gída  
and found-1SG shop good like.this

MB. u áá-thíkqa addukkáán-á pqiish-í shúgo  
and 1SG.SBJV-find shop-CNST good-INTR **like.this**  
‘and I found a good shop (**background**)’

BA. ashan gída ishdarée-d al=bún  
because **like.this** bought-1SG DEF=coffee

MB. ashan shúgo ɻinéñ shibíl-óó-gá-lí albún  
because **like.this** FOC buy-PAST-APPL-1SG coffee  
‘and then (because of **that**) I bought some coffee.’

## 2.6 語彙・交話表現

以下の文には様々なタイプの「語彙の共有」が見られる。

MB.	maaléesh,	ali	t’awwal-á-ɻí	walá	shap’úth-óó=ɻígó	addelefóon
	sorry	1SG	stay.long-PERF-INTR	NEG	hit-PST=DAT.2SG	telephone
BA.	maaléesh,	ána	t’awwál-da	máa	darab-da=léeg	ad=delefóon
	sorry	1SG	stayed.long-1SG	NEG	hit-1SG=DAT.2SG	DEF=telephone

‘Sorry, I did not call you for a long time.’

MB/BA 話者は、謝罪・共感表現として *maaléesh*、一般的な挨拶としては *azzalaam aléikum / wa-aléikum zaláam*、物事の開始時（民話における語りの開始など）に口にする表現としては *bizmillááhi rrahmááni rrahíim*、しかもたない。記述言語学的にはこれを BA の表現と呼ぶべきか、MB の表現と呼ぶべきか、それとも単に「アラビア語表現」と呼ぶべきか？

MB/BA アラビア語由来の動詞 *t’awwal-* を共有しており、いずれも否定述語を目的語として伴う。MB/BA を問わず「電話を掛ける」は「電話を殴る」と表現され、「電話」はいずれも表層的には同形の借用語 (*ad)delefóon* と表現される。

ただし、(翻訳) 借用は一方的ではない。SA には存在しない、以下のような表現が BA には存在し、MB からの翻訳借用であるといえる。

MB.	náj    ñgó? — alú                ñinéj    k’ól-i=gi
	what 2SG              head            FOC        eat-PRES=1SG
BA.	máál=ag? — raaz=í    yaahú    b-aagul=ní
	what’s.up=2SG    head=1SG FOC    ind-3SG.M.eat=1SG
‘What’s up?’	‘My head is aching. (lit: It is that my head is eating me.)’

以下のような交話表現もある。

MB.	húú-?a                shaíné    maa-né? ísm-ag                géef? ‘ <b>what</b> (lit: how) is your name?’	BA.
	name-POSS.2SG <b>how</b> COP-3SG name-POSS.2SG <b>how</b>	
	ñgó p’ish-í    bús’ik’e-á?        jízm-ag                goíz? ‘ <b>how</b> are you (lit: your <b>body</b> )?’	
	2SG good-INTR <b>body</b> -Q <b>body</b> -2SG.M good	

聞いただけでは MB なのか BA なのか判断できない文もありうる。（ただし、語順を変えると両者の違いは明らかになる。）

- a. [al?uzdâzgádabalqidâb] ‘The teacher wrote the book.’
- b. BA. al=?uzdáaz    gádab                al=gidáab  
DEF=teacher    wrote.3SG.M    DEF=book
- c. MB. al?uzdáaz    gádab-a                (a)lgidáab  
teacher            write-PERF    book

- d. BA. al=gidáab gádab=u al=?uzdáaz  
     DEF=book wrote.3SG.M=3SG.M DEF=teacher
- e. MB. algidáab gádab-a(-lá) ál?uzdaaz  
     book write-PERF-NTS teacher+NOM  
     ‘The teacher wrote the book. / The book, the teacher wrote it.’

## 2.8. 所有

MB と BA では ‘to have’ に相当する表現の用法も共通している。(西欧諸語と似ているので、こういうものは「双言語記述」として面白くみえないかも知れない)

MB	BA	
ali gídi <u>fuuda</u>	ána indí <u>gúrûsh</u>	I have <u>money</u>
ali gídi <u>alú kqólí</u>	ána indí <u>wajaq arráaz</u>	I have a <u>headache</u>
albúná-lé gídi <u>assúkkar</u> míllañ	al-bún dá índu <u>zúggar gadíir</u>	this coffee has <u>much sugar</u>
ali gídi <u>taláta yóm</u> thálé	ána indí <u>talááta yóom</u> hína	I am here for <u>three days</u> lit: I have <u>three days</u> here

## 2.9. MB. mbá vs. BA. abu, al= 所有接辞・関係代名詞・名詞修飾形容詞

アラビア語変種によっては所有 (‘proprietive’) の abu が関係節標識となるものもある (オマーン方言、アラビア語クレオール)。BA ではこの機能拡大はみられない。機能語はなんでも sha/ashan, ɻinéñ/yaahú, shúgo/gída のように機能が一致させられるわけではない。

MB	BA	
<b>mbá</b> digiñú	abu dígiñ	beard (person) (lit: <b>with</b> beard)
mobáil kárd <b>mbá</b> áshara rialú	mobáil kárd abu áshara riyáal	10 birr mobile card (lit: <b>with</b> 10 birr)
maabá <b>mbá</b> ádôqí	zóol aj=já	a man <b>who</b> came
maabá <b>mbá</b> shapqúthóólí	az=zóol <b>ad=darábtu</b>	the man <b>who</b> I hit
almáñga ( <b>mbá</b> ) beñeñí	al=mángá <b>al=áhmar</b>	the red (ripe) mango

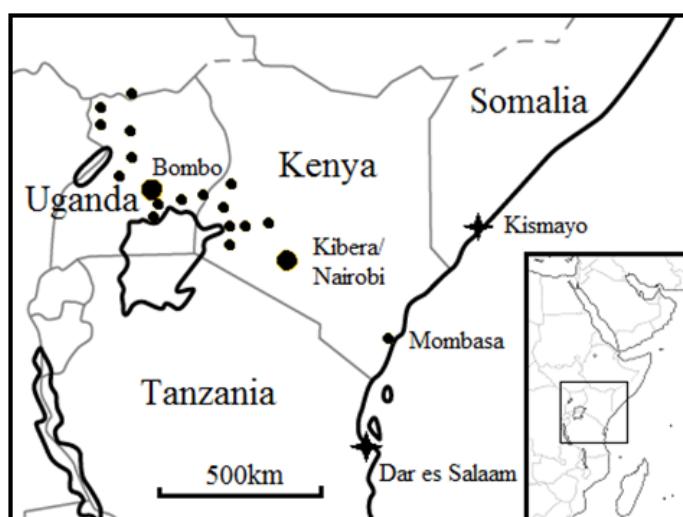
## 2.10. 比較

アラビア語変種によっては「越す」という動詞の文法化による動詞連続的な構造による比較構文がある (ナイジェリア方言、アラビア語クレオール)。BA ではこの機能拡大はみられない。「越す」という語を用いた比較表現自体は可能)

- MB. a. ali d'ááñ-í gor-í ñgó  
     1SG big-INTR surpass-INTR 2SG
- BA. b. ána b-a-fúút=ag be=l=gúbur  
     1SG IND-1SG-surpass=2SG with=DEF=bigness
- c. ána kabiir aléek/mínnak  
     1SG big on=2SG/from=2SG
- d. \*ána kabiir b-a-fúút=ag  
     1SG big IND-1SG-surpass=2SG  
     'I am bigger (older) than you.'

### 3. キベラ・ヌビ語とナイロビ・スワヒリ語

キベラ・ヌビ語 (Kibera Nubi; KN)：ケニアの首都ナイロビの最大のスラムの一つとして知られるキベラ地区の最初期からの住民であり、20世紀初頭にはイギリス植民地軍のアフリカ兵の主力を担い、その後東アフリカ諸都市部に集住した。ヌビ語は、一般的なアラビア語と比べて極端に音韻・形態論的簡略化が見られるため、姉妹語である南スーダンの地域共通語、ジュバ・アラビア語 (Juba Arabic; JA) とともに「アラビア語クレオール」の一つとされる。ポンボなどウガンダ側のヌビ語とは若干の差があるが「方言」とみなすのは危険（国境を超える移動は頻繁、世代差やローカルな言語の影響といった、ふつう「方言」差と呼ばれない変数のほうがより重要）。



Location of larger Nubi communities in East Africa

ナイロビ・スワヒリ語 (Nairobi Swahili; NS)：ナイロビをはじめとするケニア

内陸部で話されるスワヒリ語変種であり、ザンジバル方言を基盤とする標準スワヒリ語 (Standard Swahili; SS) とは異なる（往々にしてより単純な）構造をもつ。その前身は植民地期に広まったスワヒリ語ピジンだと考えられるが、現在では「脱ピジン化」したといえそうである。ケニア都市部ではナイロビ・スワヒリ語と英語・民族語・スラング語彙のコード・スイッチングが広く行われ、その言語実践ないし若年層都市言語はシェン (Sheng) とよばれる。

### 3.1. 親族名称

Nubi	Swahili (Nairobi=Standard)	
babá	baba	father
babá kebír/sakâr	baba mkubwa/mdogo	paternal uncle (elder/younger)
kalí ~ kaltí	mjomba	maternal uncle
mamá	mama	mother
mamá kebír/sakâr	mama mkubwa/mdogo	maternal aunt (elder/younger)
áwá	shangazi	paternal aunt
akû	ndugu	brother, sister, cousin, ...

### 3.2. 身体感覚表現

Nubi	NSw.	
ségete dûg=ána	baridi imenipiga	‘coldness hit me’ (= JA)
zúkma ámsuk=ána	mafua imenishika	‘cold caught me’ (= JA)
án=logó zúkma	nimepata mafua	‘I got cold’ ( $\neq$ JA)
án=ásuma hári	nasikia joto	‘I hear (feel) hot’ ( $\neq$ JA)

### 3.3. 時間表現

Nubi	NSw.	
sáa wái	saa moja	‘7 o’clock (lit: 1 o’clock)’
sáa taláta	saa tatu	‘9 o’clock (lit: 3 o’clock)’

### 3.4. 交話表現

Nubi ( $\neq$ JA)	NSw.	
kábar táki?	habari zako?	‘What is your news?’
kabar bê?	habari za nyumbani?	‘What is the news of the house?’
kabar yôm milân?	habari za siku nyingi?	‘What is the many days’ news?’
kabar míñ umbári?	habari za tangu jana?	‘What is the news since yesterday?’
kabar wodúru?	habari za kupotea?	‘What is the news of getting lost?’

		(i.e., ‘Long time no see’)
kélem!	séma!	‘Say! (= Hi!)’

Borrowings: hodí ~ hódi ‘may I come in’, karíbu ‘welcome’, shikamóo ‘hello’, marahabá ‘hello’, ebú ~ ébu ‘please’, bwaná ‘mister’, (a)bé? ‘yes?’...

### 3.5. 命令・勧誘・交話表現複数形 imperative/cohortative/phatic expressions

Nubi	NSw.	
ágara / ágara=kum	soma / someni	‘Read! (to sg/pl)’ (= JA)
taâl / taâl=kum	kuja / kujeni	‘Come on! (to sg/pl)’ (= JA)
ná=ruá / ná=ruá=kum	twende / twendeni	‘Let’s go! (to sg/pl)’ ( $\neq$ JA)
shúkran / shúkran=kum	asanti / asanteni	‘Thank you. (to sg/pl)’ ( $\neq$ JA)
asánti / asánti=kum		
karíbu / karíbu=kum	karibu / karibuni	‘Welcome. (to sg/pl)’ ( $\neq$ JA)

### 3.6. リンカ一

Nubi	NSw. (= StSw.)	
mamá ta ibrahîm	mama wa Ibrahim	‘Ibrahim’s mother’
zaídi ta áshara	zaidi ya kumi	‘more than ten’
baáda ta salâ	baada ya sala	‘after the prayer’
azól ta bidíi	mtu wa bidii	‘diligent person’
salâm ta kawaída	maamkizi ya kawaida	‘ordinary greetings’
míla ta kinúbi	míla ya Kinubi	‘Nubi(an) culture’
séme ta joúju	pazuri pa arusi	‘good for wedding’
shâr ta taláta	mwezi wa tatu	‘March (third month)’
taminnahâr	chamchana	‘lunch’

### 3.7. 存在詞

- a. KN. **fí** shunú bára? (= JA.)  
NS. **iko** nini injé? ( $\neq$  SS. kuna nini njé.)  
‘What is out there?’ (existential)
- b. KN. **fí** yôm tá-ba-árfu. ( $\approx$  JA. **fí** yôm íta bi árufu.)  
NS. **iko** siku utajua. ( $\neq$  SS. siku moja utajua.)  
‘One day you will know.’ (indefinite marker)
- c. KN. ána **fí** ma hóma hári. ( $\neq$  JA. ána indí húmma sedid.)  
NS. ni-**ko** na homa kali. ( $\neq$  SS. ni-na homa kali.)

- ‘I have (literally ‘I am with’) a strong fever.’ (possessive)
- d. KN.      ána **fí** séme. ( $\neq$  JA. ána séme.)  
 NS.      ni-**kó** poa. (= SS.)  
               ‘I am fine.’ (predicative copula)

### 3.8. 文法化 ‘place’

Nubi (bakân ‘place’)	NSw.	
näré bakân hári	leo kuna joto	‘It is hot today.’
bakân gí=séksek	kunanyesha rasharasha	‘It is drizzling.’
bakân wái	pamoja	‘together (lit. one place)’

Nubi. bakan ána ligó badûm ma mamá taki

NSw nilipoonana na mama yáko  
 ‘When I met your mother’

### 3.9. 文法化 ‘matter’

Nubi	NSw.	
dé kalâm/shoôr tô	ni shauri yake	‘It’s his matter’

kalam/shoor tá-já, ána já. shauri umekuja, nimekuja. ‘Because you came, I came’

### 3.10. 与格前置詞の語彙的用法 (na ~ ne ~ no / kwa)

Nubi	NSw.	
rutan núbi góu ne=ítâ?	kinubi ni kigumu kwako?	‘Is Nubi difficult for you?’
ne=ítakum yâ wêñ haswá?	kwenu ni wapi hasa	‘Where exactly is your home(town)?’

### 3.11. 指示副詞 ‘like this’: jedé / hivyo (cf. MB/BA)

sô jedé	fanya hivyo	‘do this way/like this’
yâ jedé	ndiyo hivyo	‘that’s it (you are right)’ (yâ/ndiyo see 3.16)
fi jedé	kwa hivyo	‘therefore’ (fi/kwa Kiswahili ‘in Sw.’)

### 3.12. 重複

Nubi. fí yala~yalâ gí=dúgu~dugu lungára	
NSw. kuna watoto watoto wanapigapiga ngoma	‘There are (various $\neq$ JA) children (repeatedly = JA) beating the drum.’

### 3.13. 接続法 k(ě)/-e と使役

Nubi	NSw.	
(áfdal) k=án=rúa.	(afadhalí) niende.	‘I would (better) go.’ (= JA)
án=áju k=o=sála ínsha taí.	nataka anirekebishiie insha yangu.	
sébu k=án=rúa.	acha niende.	‘I want him to revise my writings.’ (= JA) ‘Let me go’ ( $\neq$ JA)

### 3.14. 焦点・提示標識 yă / ndiyo ~ ndo

ána yă mamá ta X.	mimi ndiyo mama wa X.	‘I am X’s mother.’ (= StSw.)
Kamís yă dúg=ána.	Hamisi ndiyo amenipiga.	‘It is Khamis who hit me.’
yă dé chái.	ndiyo hii chai.	‘Here is your tea.’
yă jedé!	ndiyo hivyo!	‘That’s it!’ (= 3.10)

### 3.15. 所有 Proprietive (‘having, with’) = 関係節標識 Relativizer: ab / -enye (cf. BA)

móyo ab kofúta maji yenye popfu “water with foams, foamy water”

ája ab tá=áju kitu chenyé unataka “the thing that you want”

Nubi. kalám ab fijo gélba taki (words rel inside heart your)

NSw. maneno yenye ndani ya roho yako (words rel inside gen heart your)

“words that are inside your heart”

### 3.16. 不定詞

ágara	‘read (finite, active)’
agará	‘be read (finite, passive)’
agara ...	‘to read ... (INF1)’ (with a post-verbal argument)
agára	‘to read, reading (INF2)’ (without a post-verbal argument)

Nubi                    NSw.

agara kitâb séme    kusoma kitabu ni nzuri. ‘Reading a book is good.’ (= JA)

séme agará kitâb    ni nzuri kusoma kitabu. ‘It is good to read a book.’ ( $\neq$ JA)

Nubi. gerî k=án=tálá kíbra rua fi japân

NSw. karibu nitaondoka Kibra kwenda Japani

‘Soon I will leave Kibera going [back] to Japan’ ( $\neq$ JA)

Nubi. tala min kíbra ladi bómbo bi=súlu yôm kám?

NSw. kutoka Kibera mpaka Bombo itachukua siku ngapi?

‘From Kibera up to Bombo, how much does it take?’

Nubi. án=gí=tarajía abidu shâr ta árba, kě ána ágara ma bidíi  
NSw. natarajia kuanzia mwezi wa nne nisome kwa bidi  
‘I expect, from April onwards, I will study diligently.’

Borrowing of **ku-** ‘to (infinitive)’ (NEW; only in Kibera)

Nubi góu ne=íta (**ku-**)alíka ína?  
NSw. ni ngumu kwako ku-tu-alika?  
‘Is it difficult for you to invite us?’  
Nubi án=gú=rúa (ku)rakabu chái.  
ninaénda kupika chai  
‘I am going to make tea.’

### 3.17. ヌビ語のスワヒリ語借用語と他動詞派生・相互形

asás	‘nice’	vs.	ásas	‘do nicely’
karíbu	‘welcome’	vs.	karibísha, *káribu	‘to welcome’ (Sw. loan)
íbu badûm				‘love each other’
pendána, *pénda badûm				‘love each other’ (Sw. loan)
karibishána, *karibísha badûm				‘welcome each other’ (Sw. loan)

-ísha ‘-ize (causative)’ の借用 (若年層のみ)

zídi ‘increase (intrans.)’ – zídi / zidísha ‘increase (trans.)’ (cf. Sw. zidi – zidisha)  
zalân ‘be angry’ – zálzal / zalanísha ‘make angry’ (cf. Sw. kasirika – kasirisha)  
tabân ‘be tired’ – tában / tabanísha ‘make tired’ (cf. Sw. choka – chosha)  
wóduru ‘get lost’ – wóduru / wodurísha ‘lose’ (cf. Sw. potea – poteza)

### 3.18. ki- ‘language’ の借用

kiswahíli = rutan swahíli ‘Swahili language’  
kinúbi = rutan núbi ‘Nubi language’  
kibéle = rutan bélé ‘indigenous (lit. country) language’

### 3.19. スワヒリ語借用語における名詞複数形接頭辞

SG	PL	
mpíra	mpíra (*mipira)	‘ball’ (mkáti ‘bread’, kabíla ‘tribe’)
makáa (*káa)	makáá	‘charcoal’ (mayái ‘egg’, matúnda ‘fruit’)
maalím	malimâ (*waalím)	‘teacher’ (pich-â ‘picture’, dirish-â ‘window’)

yémbe	mayémbe (*yembâ) ‘mango’ (ma-fenési ‘jackfruit’)
mzée	wazée (*mzeyâ) ‘elder, sg/pl’ (mjukuu ‘grandchild’)
mkenya	wakénya ~ mkenyâ ~ wakenyâ ‘Kenyan, sg/pl’
kijana	vijanâ ‘kid’

#### 4. ジュバ・アラビア語とバリ語

ジュバ・アラビア語 (Juba Arabic) はヌビ語と非常に似たクレオール、ただし多くの話者にとって「第二言語」と位置付けられる（実際には母語話者も多いが、アイデンティティ・マーカーとしては未確立）。

バリ語 (Bari) はジュバを中心としてナイル両岸地域で話される東ナイル諸語の一つであり、ジュバ・アラビア語の成立に際して大きな影響力があったと考えられている。相互に借用語も多く、かなりの程度逐語的に文を作ることができる。

(バリ語より東で話される東ナイル諸語 (マサイ、トルカナなど) とはかなり異なる構造をもつ (バリ語は SVO かつ格標示なし、やや東・南東のロピット語は VSO かつ有標主格型言語)。バリ語地域より北・西・南西の東ナイル諸語 (マンダリ、カクワ、ククなど) はバリ語と極めて似た構造をもつ。)

JA. íta bí ágara sunú fi jáma íni?  
2SG IPFV read what at university here

Bari dó kən-dyâ nyô í jama nî?  
2SG read-ACT PTCP what at university here  
'what do you study here at the university?'

JA. ána bí ágara luga-ât ta afríkiya, ze rutan ta bari.  
1SG IPFV study language-PL of Africa like language of Bari

Bari nân kən-dyâ kútús-en tí apríka, gwəsɔ̄ kutok na bari.  
1SG read-ACT PTCP language-PL of.PL Africa like language of.F Bari  
'I study African languages, like the Bari language.'

JA. hásadé, ána bí rúwa bára be záman gusêr.  
now 1SG IPFV go out with time short

Bari sɔŋínaná, nân na to kaŋô kɔ dñjít ná'dít.  
now 1SG PROG go.PTCP out with time short  
'Now I am going out for a while.'

- JA. **seyi, nâs ta bêt fí fi bêt?**  
      Q     people GEN house exist at house
- Bari **'dirí, ɳótô tí mede kátá í 'baŋ?**  
      Q     people GEN.PL house exist at house  
      ‘Are the people of the house at home?’
- JA. **ána kamân dêr rúwa fi rajâf**  
      1SG also want go at Rajaf  
**asan ána bi áinu sakaf-ât ta bari.**  
      so.that 1SG IRR see culture-PL of Bari
- Bari **nân kötí yönö tô í rajâp**  
      1SG also want go at Rajaf  
**anyén nan kɔ tú méddyâ kækery-at tí bari.**  
      so.that 1SG FUT see culture-PL of.PL Bari  
      ‘I also want to go to Rejaf so that I can see the Bari culture.’
- JA. **akér kedé íta mâ géni fi fúnduk,**  
      better SBJV 2SG NEG stay at hotel  
**kedé íta géni fi bêt teńna.**  
      SBJV 2SG stay at house POSS.1PL
- Bari **briyá tí dɔ gwón tî sí'dâ í lɔkónda,**  
      please SBJV 2SG SBVJ.NEG stay at hotel  
**tí dɔ sì'da-ní í 'baŋ níkaŋ.**  
      SBJV 2SG stay-IMP at house POSS.1PL  
      ‘You should not stay at a hotel—please stay in our house.’
- JA. **súkurán táki, bêt tákum dé fí wên bedábt?**  
      thanks POSS.2SG house POSS.2PL DEM exist where exactly
- Bari **tmáti ílot, 'bâŋ násu ná gwɔn yâ 'dirí?**  
      thanks M.POSS.2SG house F.POSS.2PL DEM.F be.PTCP where Q  
      ‘thank you, where is your house (that you mentioned), exactly?’
- JA. **ána dêr kedé íta álimu rakabu asída.**  
      1SG want SBJV 2SG learn cook.NMLZ polenta
- Bari **nân yönö tí dɔ jojomb-í dérjá paŋga.**  
      1SG want SBJV 2SG practice-IMP cook polenta

‘I want you to learn to cook polenta (ugali)’

#### 4.2. 語末 L や HF の実現（ダウンステップ？）

Bari /jada#/ [jādā] ~ [jādà] ‘want’

JA. /mèdè#/ [mēdē] ~ [mēdè] ‘school (slang)’

Bari /tórōn#/ [tórōn] ~ [tóròn] ‘problem’

/ŋínî#/ [ŋínī] ~ [ŋíni] ‘here’

JA. /fí wén#/ [fí wēn] ~ [fí wèn] ‘where is/are ...’ (‘exist’ + ‘where’)

#### 4.3. 人称代名詞

主語格 = 目的語格 ≠ 所有格, cf. 与格

nân a mét dɔ	ána áinu íta	‘I saw you’
dó a mét nan	íta áinu ána	‘you saw me’
karín tì ŋótú	ísim ta zôl	‘the name of a man’
karín kunök/kwe	ísim táki/tai	‘my name’
*karín tì dɔ/nân	*ísim ta íta/ána	(name GEN 2SG/1SG)
nágó kunök	gówi le íta	‘difficult for you’
		cf. Nubi góu ne íta ~ góu něki

#### 4.4. 所有と複合

lókí ná sudân	junub sudân ~ junûb ta sudân	‘South Sudan’
kutok na bari	rutan bari ~ rutân ta bari	‘Bari language’
pirít dérétt	mahâl ta rakábu	‘place for cooking (kitchen)’
nékénêt lókêt	hábil ta serígu	‘rope for fishing’
ŋóté jáda	úma ta jada	‘Jada’s mother’
ŋóté kádî	sidi bêt	‘house owner (female)’

#### 4.5. 使役-自発-受動交替

(1) JA. a. úwo fáta bâb ‘he opened the door’

3SG open door

b. bâb fáta ‘the door opened’  
door open

c. bâb fata-ú / fata-ú bâb (ma úwo) ‘the door was opened (by him)’  
door open-PASS open-PASS door (with 3SG)

(JA. -ú ‘PASS’ < Sud. Ar. -óo=h, -úu=h ‘3PL>3SG.M’)

- (2) Bari a. nyé a ɳá(-jó) kótumît ‘he opened the door’  
3SG PAST open-ACT door
- b. kotumît a ɳá-jø ‘the door opened’  
door PST open-ACT
- c. kotumît a ɳá-yî (kø nyé) ‘the door was opened by him’  
door PST open-PASS (with 3SG)

- (3) JA. a. úwo gí fáta bâb ‘he is opening the door’  
3SG IPFV open door
- b. bâb gí fáta ‘the door is opening’  
door IPFV open

- (4) Bari a. nyé ɳa-jó kótumît ‘he is opening the door’  
3sg open-ACT PTCP door
- b. kotumît ɳá~ɳa-jø ‘the door is opening’  
door NPST~open-ACT

#### 4.6. TAM 標識

JA. Ø ‘PERF’ vs. bi ‘IRR’ vs. gí ‘IPFV’

Bari a ‘PST’ vs. RED ‘NPST’ VS. PTCP ‘IPFV’

- (1) JA. a. ána bi kátibu kitâb ‘I will write a book’  
1SG IRR write book
- a’. ána kátibu kitâb ‘I wrote a book’  
1SG write book
- a”. ána gí kátibu kitâb ‘I am writing a book’  
1SG IPFV write book
- b. ána (bi) árufu íta ‘I know you’  
1SG (IRR) know 2SG
- b’. íta (\*bi) áruf galí ána jóuzu? ‘Did you know that I’m married?’  
2SG (IRR) know COMP 1SG marry

- (2) Bari a. nân wu~wúr buk ‘I will write a book’  
1SG NPST~write book
- a’. nân a wúr(-jó) buk ‘I wrote a book’

- 1SG PST write(-ACT) book  
 a".**nân wurjő**      **buk**      'I am writing a book'  
     1SG write.ACT.PTCP book
- b. **nân dε~dén**      **dɔ**      'I know you'  
     1SG NPST~know 2SG
- b'. **dɔ a dén adí nân a yém-ba?**  
     2SG PST know COMP 1SG PST marry-ACT  
     'Did you know that I'm married?'

(3) JA. a. **ána gí híbu íta**      'I love you'

1SG IPFV love 2SG

b. **#ána bi híbu íta**      'I love you'

1SG IRR love 2SG

Bari c. **nân nya~nyár dɔ**      'I love you'

1SG NPST~love 2SG

Bari

JA.

**nyé a wórán**      **úwo zalân**      'he is angry'

**nyé wó~wóran**      **úwo bi zalân**      'he will be angry'

**nyé a dótô**      **úwo nûm**      'he slept / he is asleep'

**nyé dó~dóto**      **úwo bi nûm**      'he will sleep'

#### 4.7. 機能が 1 対 1 に対応する有標な（？）動詞述語

多回数・反復形

**nân kokórjo ána gí zárá~zara/kúrújú~kujuru**      I cultivate (repeatedly)

**nân körjô ána gí zára/kúruju**      I cultivate

**kínyó na dé~dér-a ákil dé gí rakabú**      the food is (being) cooked

**kínyó na dε~dér-a ákil dé gí rakabu rakabú**      the food is cooked (repeatedly)

状態変化形

**lôpêj nya~nyár juba**      **úwo gí rûdu júba**      I love Juba

**lôpêj nyarə nyár juba**      **úwo bíga gí rûdu júba**      I came to love Juba

動詞焦点形 (lit: 'be done with doing')

**ná paŋga a pútükő**      **asída dé sutú**      the polenta is cooked

**ná paŋga a pútükő kɔ pútükő**      **asída dé sutú ma sútu**      the polenta is COOKED

(not bought, etc.)

#### 自己受益 self-benefactive

Bari nân 'deke gwörökíndyö mógon sâ.  
JA. ána dêr bíyu le ána sâ.

'I want to buy me a watch'

#### 4.8. コピュラ

バリ語コピュラ a は付帯状況・結果をふくむ様々な補語を標示する。ジュバ・アラビア語には（一部、JA. ka ‘as’ が対応することがあるほかは）このような機能語はない。

Bari	JA.	
ŋíló a payipáyi	dé payipáyi	this is a papaya
ŋíló ŋɔ̄ lɔ̄ŋɔ̄ a payipáyi	hája dé gí nadí payipáyi	this one is called a papaya
yî lɔ̄ŋgô ŋíló ŋɔ̄ a payipáyi	anína gí nadí hája dé payipáyi	we call this one a papaya
lɔ̄pén̄ a mógr̄	úwo jian	he is hungry
lɔ̄pén̄ dotó a mógr̄	úwo gí nûm jian	he sleeps hungrily
lɔ̄pén̄ât a wórâ/pô a nákê	úmon tálâ giyafín	they became beautiful
dó dê kítâ a katódinönít	íta bi istákal ka ustâs	you will work <b>as</b> a teacher
á jiyö-nî jiyö anyén kôna a winâ	yála bi atanú asan bi amulú dáwa	
		then it is grinded to be made medicine

#### 4.9. 補文標識

バリ語 **adí**、ジュバ・アラビア語 **galí** は補文標識だが、その直前では「言う／言った」という動詞やその主語を省略可能であり、かつそれ自体は省略不可能である。「言う」という動詞以外の補文も表すことができる。JA. galí は語源的には動詞由来だが、bi, gí などの TAM 標識を付加することはできない、つまり adí と同様に共時的には動詞ではない)

babá <b>adí</b> pôô	babá <b>galí</b> taâl	my father says ‘come!’
babá <b>adí</b> nyé pôpô	babá <b>galí</b> úwo gí já	my father says he is coming
<b>adí</b> pôô	<b>galí</b> taâl	s/he says ‘come!’
<b>adí</b> nyé pôpô	<b>galí</b> úwo gí já	s/he says s/he is coming
babá a kulyâ <b>adí</b> nyé pôpô	babá kélím <b>galí</b> úwo gí já	my father says he is coming
babá yejéju <b>adí</b> nân dê pôpô	babá gí fékir <b>galí</b> ána bi já	my father thinks I will come

#### 4.10. 多義

- Bari kílə luŋu a kömítöt, dédéra, lólówa, **kode** kékélo.  
JA. dêl gí nadí goromût, bi rakabú, bi yabisú, **áú** bi hamurú.  
‘they are called *catfish*; they are cooked, dried, or fried’  
Bari **kode** nyé pôpô  
JA. **áú** úwo bi já.  
‘maybe he will come’

Bari	JA.
ka'dé	baráu ‘alone, by itself, not true’
ká'de	barau baráu ‘different’

Bari	JA.
nyé pô~pô	úwo gí já s/he is coming
nân pô jôba	ána já min júba I came from Juba
nyé a pô/*wôrâ a katódinönít	úwo já/tála mudérís s/he became a teacher
<b>kák</b> papé	<b>watá</b> súkun it is hot (lit: <b>ground</b> hot)
<b>kák</b> a wôrâ/*pô papé	<b>watá</b> tála/*já súkun it became hot

語彙的な多義も相当数ありそうだが、今回は割愛する。

- Bari sɔnjinaná, tí yî **luŋgi** kínyo kɔ ñô ná mômötö  
JA. ása, kedé anína **nadí** ákil u hája ta asurúbu  
‘now, let’s **order** (= ‘call’) foods and drinks’

#### 4.11. 交話表現

Bari	JA.
dô gwən adá?	íta gí géni kêf? ‘how are you (lit: you stay how)’
mugon adá?	gísim kêf? ‘how are you (lit: body how)’
tí dô wörö-ní 'borá	kedé íta dóoru kwêš ‘good-bye (lit: let you walk well)’
tínáti ínot	súkuran táki ‘thank you (lit: your thanks)’

#### 4.12. JA ともバリ語ともつかない現象や語彙

JA では **isim dála** ‘endearment name’ とよばれる、家族内で子供を呼ぶ（場合によってそれが綽名ともなる）ための名付けが行われる。元の言語が何であろうと

似たパターン（語末 H）が現れ、何語の言語現象／言語文化とも言い難い。

jémis > jemí	James (English)
jôn > joní	John (English)
siyáma > siyamá	Siyama (Arabic)
fatúma > fatumá	Fatuma (Arabic)
jada > jadá	Jada (Bari)
lóro > lóró	Loro (Bari)

この他、o'ó ‘piggy-back’ (INTJ, 基本的に単独で乳幼児によびかける時「おんぶ！」にしか使わない) も、何語ともつかない。

#### 4.13. 借用語

バリ語・JA は相互に多くの借用語をもつが、語形が異なっているものも多い。ある種の異化か。

Bari	JA
maháta	< maháta '(bus) station'
jáma	< jáma 'university'
wáraga	< wáraga 'paper'
mákatab	< mákatab 'office'
medína/mödína	< medina 'town'
sók(w)ar	< súkar 'sugar'
gurût	< gurûs 'money'
najáo	< nája 'to succeed'
sedím/sedímbö	< sédim 'to collide'
körjô	> kúr(u)ju 'to cultivate'
turjô	> túr(u)ju 'to chase (e.g., birds)'
köyimôt	> keimôt 'peanut butter'
köyiní	> keiní 'co-wife'
körópo (pl.)	> korófo 'leaf'

JA 由来の借用語のなかには、すでに JA では「時代遅れ」となったものも多い。バイリンガル状況に変化があったとは考えられないにも関わらず JA でのみ語彙の入れ替え（アップデート）が生じたのはなぜか。また、アラビア語はバリが接したおそらく最も古くかつ長期にわたって接触している言語だが、アラビア語

以外の言語からの借用も目立つ。

Bari	JA	
<b>lóguma</b>	<b>ásida</b> (arch. <b>lúguma</b> )	‘polenta, ugali’ (Arabic > Bari)
<b>lkónda</b>	<b>fúnduk</b> (arch. <b>lokónda</b> )	‘hotel’ (Arabic > Bari)
<b>turumbíli</b>	<b>arabíya</b> (arch. <b>turumbíli</b> )	‘car’ (Arabic > Bari)
<b>lokumâr</b>	<b>humâr</b> (arch. <b>lukumâr</b> )	‘donkey’ (Arabic > Bari)
<b>tába</b>	<b>tumbâk, sijára</b> (arch. <b>tába</b> )	‘tobacco’ (Arabic > Bari)
<b>gwânda</b>	<b>báfúrá</b> (arch. <b>gwânda</b> )	‘cassava’ (Bangala/Zande? > Bari)
<b>kópø</b>	<b>kubáya</b>	‘cup’ (Bangala? > Bari)
<b>bɔŋgó</b>	<b>gumâs</b>	‘clothes’ (Bangala? > Bari)
<b>bûk</b>	<b>kitâb</b>	‘book’ (English > Bari)
<b>sukúlu</b>	<b>méderesa</b>	‘school’ (English > Bari)
<b>kilâs</b>	<b>fésil</b>	‘class’ (English > Bari)
<b>gárit</b>	<b>ájila</b>	‘bicycle’ (Swahili > Bari)
<b>kíti</b>	<b>kúrsi</b>	‘chair’ (Swahili > Bari)

高級語彙は、バリ語は英語から、JA では文語アラビア語（現代標準アラビア語）から借用する傾向もある。

Bari **i graduate school** < English

JA. **fi kulíya ta dirasât al úlya** < Written Arabic *kulliyat d-dirâsât l-‘ulyâ*  
‘in(to) the graduate school’

#### 4.14. 複数形接尾辞 -jIn

バリ語由来であり、JA のバリ語借用語につくが、いずれもバリ語の本来の複数形とは異なっている。バリ語では（JA などからの）借用語によくあらわれるが（**kópø-jín** 「コップ」）、JA ではそれらと異なる形が用いられる。

Bari SG.	Bari PL.	JA. SG.	JA. PL.	
<b>kúri</b>	<b>kúril-ón</b>	<b>kúri</b>	<b>kúri-jín</b>	‘kite’
<b>dáŋ</b>	<b>dáŋ-in</b>	<b>dáŋgá</b>	<b>dáŋgá-jin</b>	‘bow’
<b>mányáŋ</b>	<b>mányáŋ-in</b>	<b>mányáŋ</b>	<b>mányáŋ-jin</b>	‘monitor’
<b>lúkúlúli</b>	<b>lúkúlúly-öt</b>	<b>lókwílili</b>	<b>lókwílili-jín</b>	‘bat’
<b>barí-nít</b>	<b>barí</b>	<b>barí</b>	<b>barí-jín</b>	‘Bari’
<b>jenge-töt</b>	<b>jengé</b>	<b>jengé</b>	<b>jengé-jin</b>	‘Dinka’
<b>míya</b>	<b>míya-jín</b>	<b>míya</b>	<b>miy-ât</b>	‘hundred’

jiné        jine-jîn        jiné        jine-hât        ‘pound’

## 5. おわりに

- 影響の方向性は状況によりさまざま（ただし単純に一方向的とはいえない）  
“L1”        “L2”  
MB        ⇌        BA  
Nubi        ←        NSW.  
Bari        →        JA
- 語彙（借用含む）や形態法など可視的な部分は意外と保守的、翻訳借用（多義、交話表現含む）や統語法など非可視的な部分は共有されやすい傾向がある？
- Haugen が想定したような単純な同定作業は恐らく不可能、かなりの部分でふるまいが共有されていても、非常に微細な点では差異が見つかることが多い。この言語事実をホリスティックな言語観とどのように折り合いをつけていくことができるだろうか。
- 「双言語記述」という方法は本発表で扱ったような（社会的に安定した）バイリンガリズムだけでなく、種々の「言語レパートリー」の記述にも応用できるのではないか。

### 参考文献

- Dixon, Robert M. W. (2010) *Basic linguistic theory, Volume 1: Methodology*. Oxford: Oxford University Press.
- Grosjean, François (2008) *Studying bilinguals*. Oxford: Oxford University Press.
- グロジャン, フランソワ (2018)『バイリンガルの世界へようこそ—複数の言語を話すということ』勁草書房.
- Haugen, Einar (1954) “Problems of bilingual description”, Hugo J. Mueller (ed.), *Report of the Fifth Round Table Meeting on Linguistics and Language Teaching*. Washington, D.C.: Georgetown University Press. 9-19.
- Haugen, Einar (1955) “Elements of bilingual description”, *General Linguistics* 1: 1-9.
- Kachru, Yamuna (1994) “Monolingual bias in SLA research”, *TESOL Quarterly* 28 (4): 795-800.
- Nagara, Susumu (1972) *Japanese Pidgin English in Hawaii: A Bilingual Description*. Honolulu: University of Hawai‘i Press.
- Romain, Suzanne (1995) *Bilingualism* (Second Edition). Oxford: Blackwell Publishers.